

資料 1

令和 5 年 6 月 26 日

大阪市長 横山 英幸 様

地方独立行政法人天王寺動物園
理事長 山中 諄

令和 4 年度の業務実績にかかる自己評価について

今年度の業務について自己評価を行いましたので、成果や課題などについて、以下のとおり概要を報告します。なお、年度計画の自己評価については別添のとおりです。

【前提】

- 動物園の業務を以下の 3 つの分野に分類し、それぞれ中期目標に示されたあるべき姿を以下のとおり整理した。

分野	あるべき姿（中期目標抜粋）
1 動物園の本来事業	展示動物の充実
	飼育技術の高度化
	種の保存
	施設の整備・適正な維持管理
	来園者の行動変容を促す教育活動
	調査研究の推進
2 動物園の魅力向上	魅力発信の強化
	来園者サービスの充実
3 経営・組織・運営	機動的かつ柔軟な組織体制
	人材の確保・育成
	業務の効率化
	事故の未然防止・迅速な対応
	自己収入の確保
	独法の優位性を活かした経費節減

- 分野ごとの中期目標で示されている姿に近づくべく、努力した点、成果の上がった点、今後の課題などを以下に示す。

1 動物園の本来事業について

① 飼育技術の高度化

【努力した点や成果】

- 昨年度に引き続き、動物福祉に関する取組に力を入れ、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングについて、取組種の拡大だけではなく、内容の充実を図った。これにより、効果検証の結果、複数種で到達レベルが上がっていることが確認できた。
- また今年度新たにオープンした「ふれんどしっぷガーデン」で、ふれあい事業に関するモニタリングを行い、運用を修正した結果、動物の QOL が向上したことが確認できた。

【課題】

- 動物福祉の向上に不可欠な飼育部門と診療部門の連携のため、ICT 化への取り組みの一環として電子カルテへの飼育記録の統合を目指しているが、予定どおりの運用に至らなかった。令和 4 年度内に整理した課題をもとに、今後診療記録と飼育記録のプラットフォームを構築する。

② 種の保存

【努力した点や成果】

- 令和 4 年度より実施したクラウドファンディング資金を活用し、1 月より環境整備工事（アイファーマ内日本の自然エリア展示場リニューアル工事）に着手した。プランニングにあたってはニホンイシガメの繁殖に多大な実績のある姫路市水族館の視察や技術主任の直接指導を受けるなどハード、ソフト両面で保全につながる整備を図り、3 月末にリニューアルオープンした。
- また全国的な取り組みが今後進められる配偶子バンク保管施設の西日本拠点となるべく立候補し、必要な設備機器等を寄附金で購入し準備を進めた。

【課題】

- クラウドファンディングによる環境整備は令和 4 年度に完成したが、最終的な目標であるニホンイシガメの繁殖の推進に向け、ハード面のみならず、ソフト面（飼育繁殖技術の向上）について実績を有する専門家の指導、助言を得ながら向上に努める。

③ 施設の整備・適正な維持管理

【努力した点や成果】

- 令和 4 年度より着手する万博に向けた複数獣舎のリニューアル工事について、11 月末に契約を締結した。

- 大阪市直営での建築工事では、分離分割方式（設計および建築、電気、機械）での発注となるが、法人化により直営時代には制度上困難であった方式（設計施工一括・プロポーザル方式）について他事例の収集・分析を短期間に行い、同方式を採用した業者選定を実施し、上記契約に至った。

【課題】

- リニューアル工事は令和7年度までの大規模な工事であるが、昨今の物価上昇による工事価格の上昇が懸念されるなど、予算面でのリスク管理が不可欠である。また、万博開幕までに一つでも多くの魅力あるエリアを創出するべく、工程管理も重要となるため、法人全体でリスク管理を行っていく。

④ 来園者の行動変容を促す教育活動

【努力した点や成果】

- 令和4年度より出張レクチャーについて、市外団体の申込みも可能とし、市外の小中学校などにも学びの場を提供することができた。
- 令和5年4月オープン予定の新ペンギン・アシカ舎では、飼育展示と学習展示の連動で、新たな体験価値を提供し、「教育普及アクションプラン」を基盤に学びに繋げることを目標に、ペンギン・アシカを取り巻く現状や自然環境について理解が深まるよう週1回以上「サイン会議」を開催し、施設自体が教育プログラムとなるよう工夫した。

【課題】

- 現在の申込数に対しては対応できているが、市内・市外における教育普及プログラムのニーズを見極めながら、受付件数の上限設定や実施体制について検討が必要となる。
- 新ペンギン・アシカ舎においても「おやつ・ごはんタイム」は実施する予定であるが、水中での採餌行動が観察可能となる施設構造を活かし、教育的観点からの解説を実施する。

⑤ 調査研究の推進

【努力した点や成果】

- 大阪公立大学（獣医学部）との連携協定に基づき協力を得て治療にあたった稀な症例（チュウゴクオオカミに発症した鼠径ヘルニアの外科的治療例）について、その治療過程（寛解）を論文投稿した結果、日本動物園水族館雑誌、第64巻第3号（2022年12月）に掲載された。論文化することにより、学問的な価値が付与され、ひいては他園からの信頼につながる。また、重症化に至らず当該個体を救命出来たことは、連携協定の一つの成果である。

【課題】

- 今後も研究会や学会発表にとどまらず、継続した学術的な取り組みが求められる。

2 動物園の魅力向上について

【努力した点や成果】

- コロナ禍以降、様子を見ながら実施してきたイベントであるが、今年度は状況も改善が見られ、また「Team Expo 2025」への参画を通じて、複数の企業と新たに連携できるようになり、新規イベントを多数実施することができている。
- 次に、来園者満足度向上の取組みとして、ナイト ZOO におけるイルミネーションの改良や 12 月にクリスマスツリーの設置を行い、ワクワク感を創出するほか、安全快適に観覧いただけるように園内設置マップの改良（QR コードの活用等）、ベンチの改修・増設、飲食・物販の拡充（オンラインショップ開設等）、交通アクセス・イベント情報の拡充などにより、多くの来園者に楽しんでもいただくことができた。
- また動物園ファンを増やすため、ファンクラブ加入者にふれんどしゅぷガーデン内覧会イベントやプレゼント抽選付き年賀状の送付、法人ファンクラブへカレンダーを送るなど、新たな取組を行うとともに、加入者が心待ちにしていたバックヤードツアーも 3 年ぶりに再開した。

【課題】

- ファンクラブについては、前年度実績を上回ったものの、目標としていた前年比 1.2 倍には届かず、今後、様々な媒体を活用するなどで新規加入者獲得に努める必要がある。

3 経営・組織・運営について

【努力した点や成果】

- 法人化以降、コロナによる影響で低迷していた入園者数であるが、コロナ感染対策を継続しながら、5 月に販売枚数を増やし、6 月以降は販売枚数及び遠足予約数の上限を撤廃してきた。その他、新規顧客の獲得策として、特別ご招待券の導入、イベントクーポン・前売り券への割引制度を導入するなど新たな取組も行った結果、入園者数・入園料収入ともに目標を達成できた。
- また入園者数の増加に伴って、園内売店の売上も増加し、運営事業者から納付される売り上げ歩合も予算を大幅に上回った。

【課題】

- クラウドファンディングについては、1,800 万円という多額のご支援をいただ

いた一方で、4,400 万円という予め設定した目標には到達できなかった。ドナーレンジチャートを活用するなど、今後の取組に向けて、分析を行う必要がある。

- また頑張った職員・成果を上げた職員にインセンティブが働く仕組みについては、様々な視点から引き続き検討を行う。